CFOの北村です。

それでは、2020年3月期第3四半期の決算についてご説明いたします。

2ページをご覧ください。

目次

NOMURA

プレゼンテーションの概要

- エグゼクティブ・サマリー(P2-3)
- 2020年3月期決算の概要(P4)
- セグメント情報(P5)
- 営業部門(P6-7)
- アセット・マネジメント部門(P8-9)
- ホールセール部門(P10-12)
- 金融費用以外の費用(P13)
- 強固な財務基盤を維持(P14)
- 資金調達と流動性(P15)

Financial Supplement

- バランス・シート関連データ(P17)
- バリュー・アット・リスク(P18)
- 連結決算概要(P19)
- 連結損益(P20)
- 連結決算: 主な収益の内訳(P21)
- 連結決算: セグメント情報と地域別情報　税前利益(損失)(P22)
- セグメント「その他」(P23)
- 営業部門関連データ(P24-27)
- アセット・マネジメント部門関連データ(P28-29)
- ホールセール部門関連データ(P30)
- 人員数(P31)

エグゼクティブ・サマリー(1/2)

NOMURA

2020年3月期1-3Qの決算ハイライト

- **3セグメントの税前利益は1,507億円 ～ 前年の税前損失から大幅に回復**
  - ホールセール部門の収益性が大きく改善
    - 米金利低下やクレジット・スプレッドのタイトニング等を背景に、フィクスト・インカムは前年同期比で57%増収
    - ビジネス・ポートフォリオの見直しや、2019年3月期3Qに計上したのれん減損の剥落により、部門費用は低下
  - アメリカン・センチュリー・インベストメンツ関連損益の改善により、アセット・マネジメント部門も増益
- **セグメント「その他」の税前損益も大幅に改善 ～前年同期に計上した一時費用が剥落、今期は野村総合研究所株式の売却益も貢献**

	2019年3月期 1-3Q累計	2020年3月期 1-3Q累計	前年同期比
収益(金融費用控除後)	8,155億円	1兆504億円	29%
税前利益(損失)	-621億円	2,730億円	-
当期純利益(損失)[1]	-1,013億円	2,515億円	-
EPS[2]	-30.03円	75.65円	-
ROE[3]	-	12.6%	-

税前利益(損失): セグメント情報	2019年3月期 1-3Q累計	2020年3月期 1-3Q累計	前年同期比
営業部門	462億円	310億円	-33%
アセット・マネジメント部門	198億円	375億円	90%
ホールセール部門	-984億円	821億円	-
3セグメント合計	-324億円	1,507億円	-
その他	-206億円	1,271億円	-
営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	-90億円	-48億円	-
税前利益(損失)合計	-621億円	2,730億円	-

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)　2. 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)
3. 各期間の当社株主に帰属する当期純利益を年率換算して算出
4. 過去の取引事案にかかる米国司法省との和解費用(196億円)、中東・北アフリカ地域の子会社の清算手続きが進捗したことに伴う為替換算調整額の認識(-70億円)

2

まず第3四半期までの9ヵ月累計ですが、左下にありますように、収益は1兆504億円、前年同期比29%の増収、税前利益は2,730億円、当期純利益は2,515億円と、前年同期から、大幅に回復しました。
EPSは75円65銭、ROEは12.6%です。

この上半期は、米中貿易摩擦による景気減速懸念や、地政学リスクの高まりが、市場参加者のセンチメントを冷やすなど、難しい市場環境が続きましたが、10月以降は、マーケットの不透明感が弱まり、市場参加者のアクティビティも回復する傾向にありました。

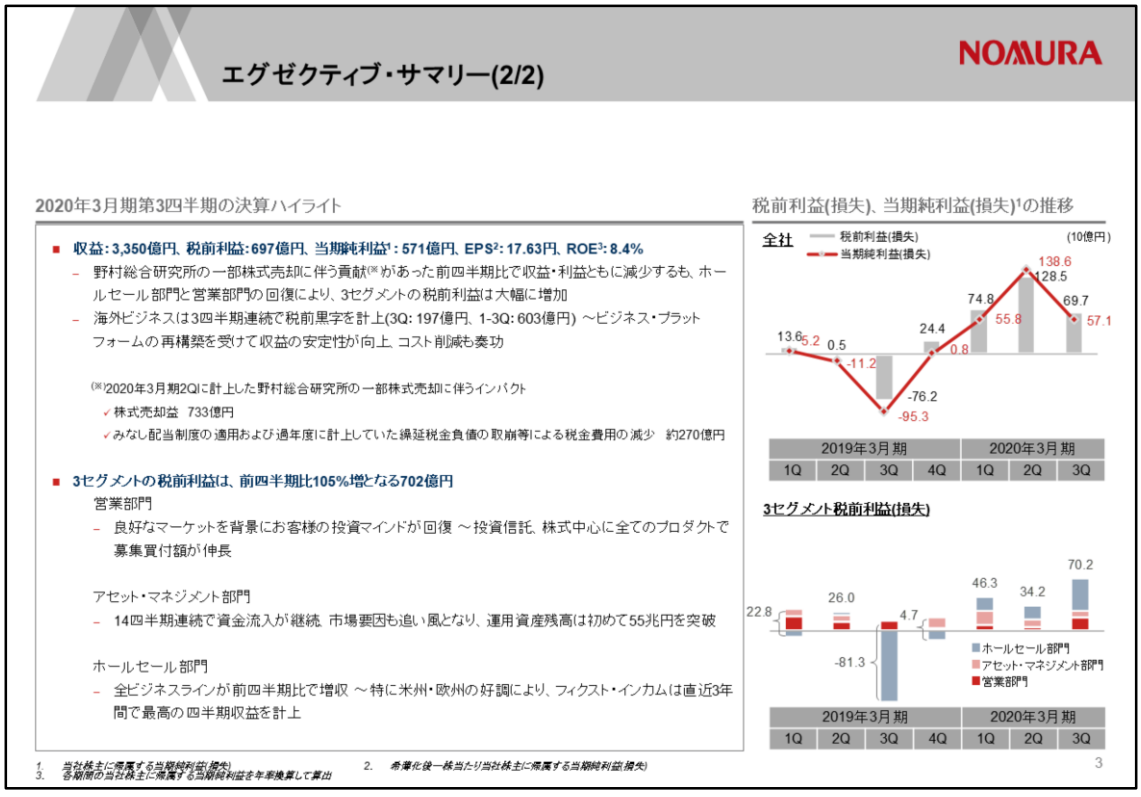
そのような環境下、野村グループでは、収益機会を的確に捉えるとともに、お客様ニーズに応じたサービスの提供や、4月に公表したビジネス・プラットフォームの再構築に全社を挙げて取り組み、コストとリスクのコントロールを徹底した結果、右下の図表にありますように、3セグメントの税前利益は1,507億円となりました。

特に、ホールセール部門の収益性が大きく改善しました。
前年、苦戦したフィクスト・インカムは、今期、米州・欧州の金利低下やクレジット・スプレッドがタイトニングする局面で、顧客フランチャイズを活かし、しっかりと収益に繋げることが出来ました。結果として、収益は前年同期比で2割ほど増加しました。
一方で、コストは2割近く、減少しています。コストが減少した大きな要因は、前年、計上したのれん減損の解消ですが、今期行ったビジネス・ポートフォリオの見直しや、継続的なコスト削減の取り組みも、功を奏しています。

営業部門は、第3四半期に入って回復基調にありますが、前年同期と比較するとセカンダリー株式の売買や、大型募集案件の減少で、33%の減益となりました。アセット・マネジメント部門は、引き続き堅調、但し、昨年マイナスだったアメリカン・センチュリー・インベストメンツ関連損益が今期はプラスに転じ、90%の増益となっております。

また、セグメントその他の損益も、大幅に改善しました。
- 主な背景は、関連会社である野村総合研究所の株式売却益733億円を、この第2四半期に計上したこと
- そして、前年計上した米国司法省との和解費用と、中東子会社の清算に伴う為替差損、合計270億円程度が、今期、剥落したことです。

続いて、第3四半期についてご説明します。3ページをご覧ください。



10-12月期は、米中貿易摩擦の後退や、英国のEU離脱に向けた動きが進展するなか、マーケットの先行き不透明感が弱まり、市場参加者のアクティビティも回復しました。株式市場は年末にかけて年初来最高値を更新し、債券市場では金利のボラティリティが落ち着くなど、総じて、市場のダイレクションも明確だったと言えます。

そのような環境下、全社収益は3,350億円、税前利益は697億円となりました。前期は野村総合研究所の株式売却益733億円がありましたので、その前期と比較すると、それぞれ13%の減収、46%の減益となっていますが、右下にありますように、本業である3セグメントの税前利益は702億円、前期比で105%の大幅増益となりました。

また、昨年4月に発表したビジネス・プラットフォームの再構築や、コスト削減の取り組みもあり、海外ビジネスの収益性が改善しました。その結果、第3四半期の海外3地域の税前利益は197億円と、3四半期連続で黒字を達成することができました。

当期純利益は571億円、EPSは17円63銭、第3四半期の利益を年換算したROEは8.4%です。

それでは各ビジネスの状況について、まず営業部門からご説明いたします。
6ページをご覧ください。

2020年3月期決算の概要

NOMURA

決算ハイライト

	2020年3月期 第3四半期	前四半期比	前年 同期比	2020年3月期 第1-3四半期累計	前年 同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,350億円	-13%	29%	1兆504億円	29%
金融費用以外の費用	2,653億円	4%	-21%	7,774億円	-11%
税前利益	697億円	-46%	-	2,730億円	-
当期純利益[1]	571億円	-59%	-	2,515億円	-
EPS[2]	17.63円	-57%	-	75.65円	-
ROE[3]	8.4%			12.6%	

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)
2. 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)
3. 各期間の当社株主に帰属する当期純利益を年率換算して算出

セグメント情報

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益(損失)

		2020年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比	2020年3月期 第1-3四半期累計	前年同期比
収益	営業部門	900億円	17%	4%	2,476億円	-7%
	アセット・マネジメント部門	254億円	-1%	57%	856億円	28%
	ホールセール部門	1,865億円	19%	45%	5,027億円	22%
	3セグメント合計	3,020億円	16%	31%	8,359億円	12%
	その他(※)	357億円	-71%	-9%	2,193億円	177%
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損	-27億円	-	-	-48億円	-
	収益合計(金融費用控除後)	3,350億円	-13%	29%	10,504億円	29%
税前利益(損失)	営業部門	176億円	3.4x	26%	310億円	-33%
	アセット・マネジメント部門	93億円	-7%	16.6x	375億円	90%
	ホールセール部門	432億円	128%	-	821億円	-
	3セグメント合計	702億円	105%	-	1,507億円	-
	その他(※)	22億円	-98%	-85%	1,271億円	-
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損	-27億円	-	-	-48億円	-
	税前利益　合計	697億円	-46%	-	2,730億円	-

(※)第3四半期の「その他」に関する補足
- 経済的ヘッジ取引に関連する損益(23億円)
- デリバティブに関する自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益(7億円)

営業部門

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

	2019年3月期		2020年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計(金融費用控除後)	86.8	74.2	80.6	76.9	**90.0**	17%	4%
金融費用以外の費用	72.7	70.9	72.5	71.6	**72.4**	1%	-0.5%
税前利益	14.0	3.3	8.1	5.3	**17.6**	3.4x	26%

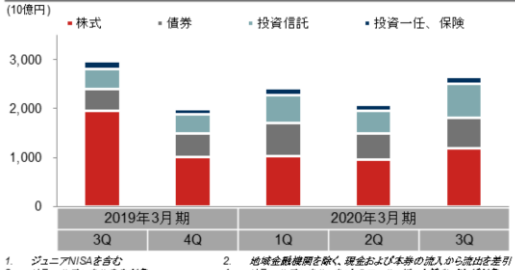
決算のポイント

- 収益: 900億円 (前四半期比17%増、前年同期比4%増)
- 税前利益: 176億円 (前四半期比3.4倍、前年同期比26%増)
- 前四半期比で増収増益
  - 良好なマーケットを背景にお客様の投資マインドが回復 ～投資信託、株式を中心に全てのプロダクトで募集買付額が伸長
  - 店舗統合に伴う一時費用が減少、業績に応じた賞与引当は増加
- 顧客基盤

	12月末 / 3Q	9月末 / 2Q
顧客資産残高	122.3兆円	114.8兆円
残あり顧客口座数	533万口座	533万口座
NISA開設口座数(累計)[1]	173万口座	172万口座
現金本券差引[2]	2,564億円	-56億円

総募集買付額[3]

(10億円)



1. ジュニアNISAを含む
2. 地域金融機関を除く、現金および本券の流入から流出を差引
3. リテールチャネルのみ対象
4. リテールチャネル、ネット&コール、ほっとダイレクトが対象

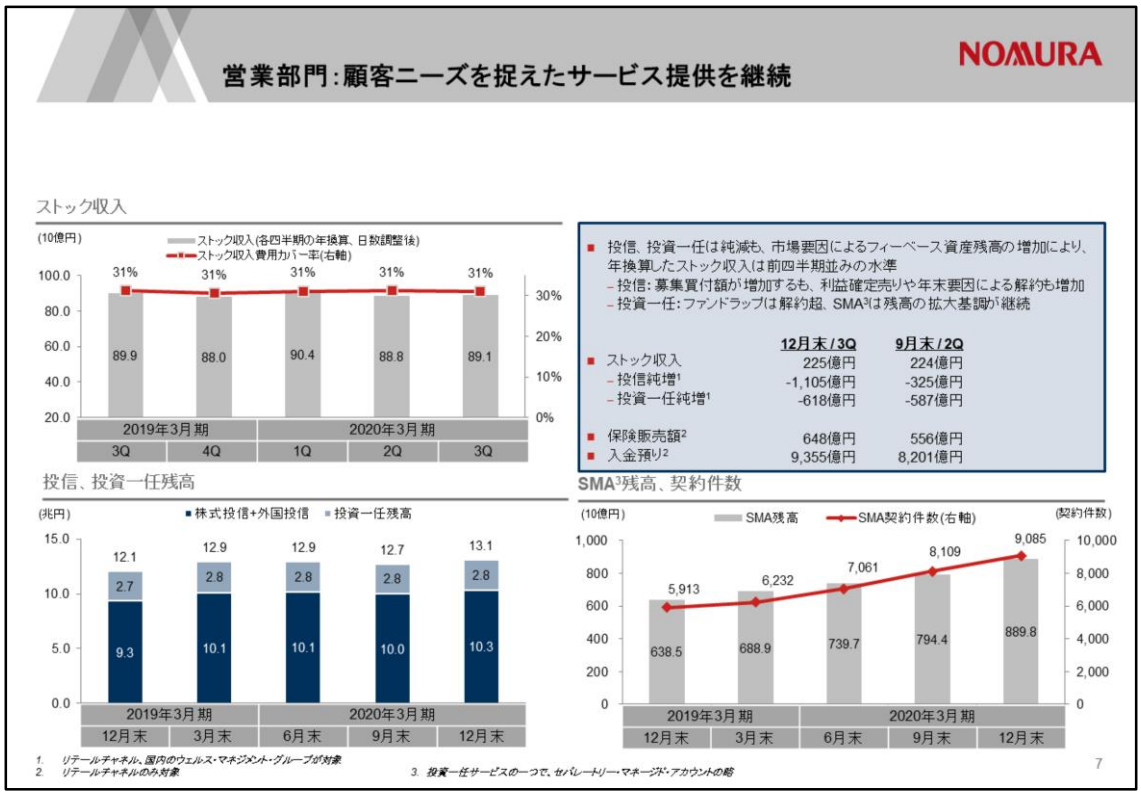
総募集買付額[3]は前四半期比27%増

- 株式: 前四半期比23%増
  - 日本株のセカンダリー株式買付が増加、外国株式は横ばい
  - プライマリー株式募集額[4](503億円、前四半期比17%減)は減少
- 投資信託: 前四半期比47%増
  - 企業の成長性やインカムゲインに着目したグローバル株式投信に資金が流入
- 債券販売額は6,300億円、前四半期比21%増
  - 個人向け国債販売や、プライマリー案件を中心に外債販売が増加
- 投資一任契約、保険販売額は前四半期比12%増

6

収益は900億円、前期比17%の増収、税前利益は176億円、前期比3.4倍の大幅増益となりました。今期は、良好なマーケット環境を背景にお客様の投資マインドが好転し、下段にありますように、総募集買付額は前期比で27%増加しました。プロダクト別では、株式は、日本株のセカンダリー取引が好調で23%の増加、投資信託は企業の成長性やインカムゲインに注目したグローバル株式投信に資金が流入し、前期比47%の増加となりました。また、債券や保険販売、投資一任契約も伸びています。

7ページをご覧ください。



右上にありますように、投信は1,100億円強の純減でしたが、これは買付が増加する一方で、マーケットの上昇に伴う利益確定売りや、個人のお客様の損益通算を目的とした解約も増えたことが要因です。投資一任も、ファンドラップの解約で600億円超の純減でしたが、右下にありますように、契約金額の大きい、SMA残高は積み上がっています。

左下にありますように、投信や投資一任といったフィーベース資産残高はマーケット要因で増加しており、年換算したストック収入は891億円、ストック収入費用カバー率は31%台を維持しています。

8ページをご覧ください。アセット・マネジメント部門です。

アセット・マネジメント部門

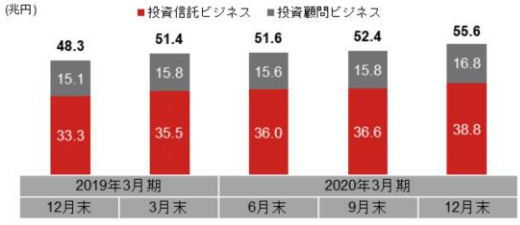
NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益[1]

(10億円)

	2019年3月期		2020年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益(除 ACI関連損益)	24.5	26.0	25.8	25.0	**26.0**	4%	6%
ACI関連損益	-8.3	4.9	8.7	0.7	**-0.6**	-	-
収益合計(金融費用控除後)	16.2	30.9	34.5	25.7	**25.4**	-1%	57%
金融費用以外の費用	15.6	16.5	16.4	15.6	**16.1**	3%	3%
税前利益	0.6	14.4	18.1	10.0	**9.3**	-7%	16.6x

運用資産残高(ネット)[2]



決算のポイント

- 収益: 254億円 (前四半期比1%減、前年同期比57%増)
- 税前利益: 93億円 (前四半期比7%減、前年同期比16.6倍)
  - 14四半期連続で資金流入が継続、市場要因も追い風となり、運用資産残高は初めて55兆円を突破
  - 運用資産残高の拡大を背景に、運用報酬は前四半期比で増加

投資信託ビジネス

- ETFへの資金流入が継続し、残高は過去最高(12月末: 19.3兆円、シェア[3]: 45%)
- 確定拠出年金向けファンドにも資金流入が継続
- 一方、新興国株式や日本株投信などは、利益確定売りで資金が流出

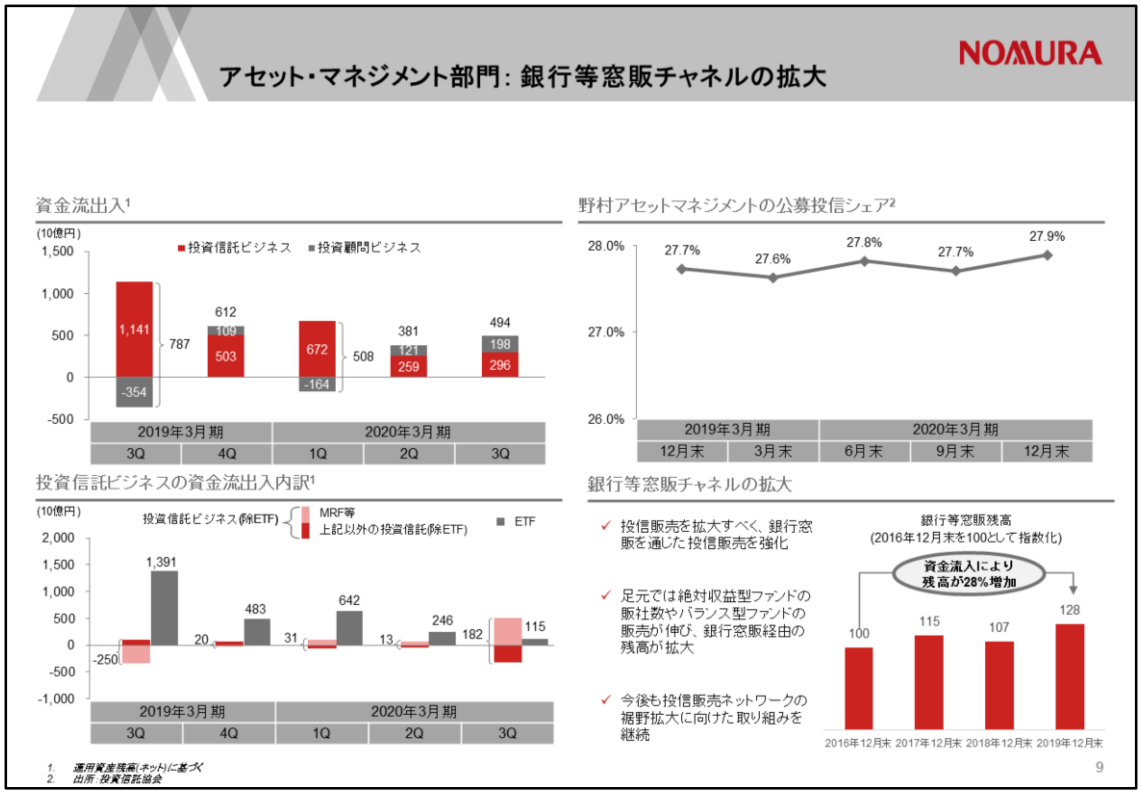
投資顧問及び海外ビジネス

- 国内では、公的年金から外国株などの新規マンデートを獲得した他、外債パッシブ運用で増額、また私的年金でも外国株運用の新規マンデートを獲得
- 海外は、グローバル・ハイ・イールドの設定があった一方、米国ハイ・イールドや日本株運用は資金が流出

1. この表は、アセット・マネジメント部門における収益合計(金融費用控除後)に対する、管理会計ベースで作成された米国会計原則に基づかない指標である収益(ACI関連損益を除く)およびACI関連損益の調整を示す。「ACI関連損益」には、当社が保有するACI株式の時価評価増益、ACI株式取得資金に係る利息相当額、および当社がACIから受領した配当金等が含まれる
2. 野村アセットマネジメント、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、ウエルス・スクエアの運用資産の単純合計(グロス)から重複資産を控除
3. 出所:投資信託協会

8

左上にありますように、収益は254億円、前期比1%の減収、税前利益は93億円、前期比7%の減益でした。減収減益の要因は、主に、アメリカン・センチュリー・インベストメンツ関連の損益が若干減少したことで、ACIを除く収益は260億円と、前期比で4%増加しています。
左下にありますように、12月の運用資産残高は55.6兆円、継続的な資金流入に、マーケット要因も追い風となり、2020年3月期のKPI目標として掲げていた55兆円を、初めて突破しました。



9ページの左上にありますように、今期は5,000億円近い資金流入となりました。投信ビジネスでは、ETFやDC向けファンド、待機資金であるMRFを中心に、3,000億円程度、流入しています。投資顧問ビジネスでは、国内年金から外債パッシブ運用や外国株のマンデートを獲得するなど、合計で2,000億円程度の流入となりました。

また、右下にありますように、投信販売を拡大する取り組みとして、銀行窓販を通じた投信販売を強化した結果、窓販の残高は、この3年間で資金流入を中心に、3割近く増加しました。

次にホールセール部門です。10ページをご覧ください。

ホールセール部門

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益(損失)[1]

(10億円)

	2019年3月期		2020年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
グローバル・マーケッツ	103.5	113.6	135.7	132.8	**160.1**	21%	55%
インベストメント・バンキング	24.7	28.6	23.7	23.9	**26.4**	11%	7%
収益合計(金融費用控除後)	128.2	142.2	159.5	156.7	**186.5**	19%	45%
金融費用以外の費用	224.1	155.3	139.5	137.8	**143.3**	4%	-36%
税前利益(損失)	-95.9	-13.0	20.0	18.9	**43.2**	128%	-

地域別収益

(10億円)

決算のポイント

- 収益: 1,865億円 (前四半期比19%増、前年同期比45%増)
- 税前利益: 432億円 (前四半期比128%増)

- 全ビジネスラインが、前四半期比で増収
  - フィクスト・インカムは直近3年間で最高の四半期収益を計上～米州・欧州が好調
  - エクイティも米州の貢献により、前四半期比で増収
  - インベストメント・バンキングは、レバレッジド・ファイナンスが回復
- コスト抑制に努めた結果、部門利益は大幅に伸長

地域別収益(前四半期比、前年同期比)

- 米州: 736億円(44%増、78%増)
  - 金利プロダクトやエクイティ・デリバティブ中心にグローバル・マーケッツが好調、インベストメント・バンキング収益も回復
- 日本: 537億円(5%増、10%増)
  - 金利・クレジット中心にフィクスト・インカムが増収、エクイティも堅調
  - 収益機会の減少により、インベストメント・バンキングは減収
- 欧州: 369億円(31%増、35%増)
  - 金利プロダクト中心にフィクスト・インカムが増収
- アジア: 224億円(15%減、111%増)
  - フィクスト・インカムは好調だった前四半期比で為替/エマージングが減収、クレジットは堅調

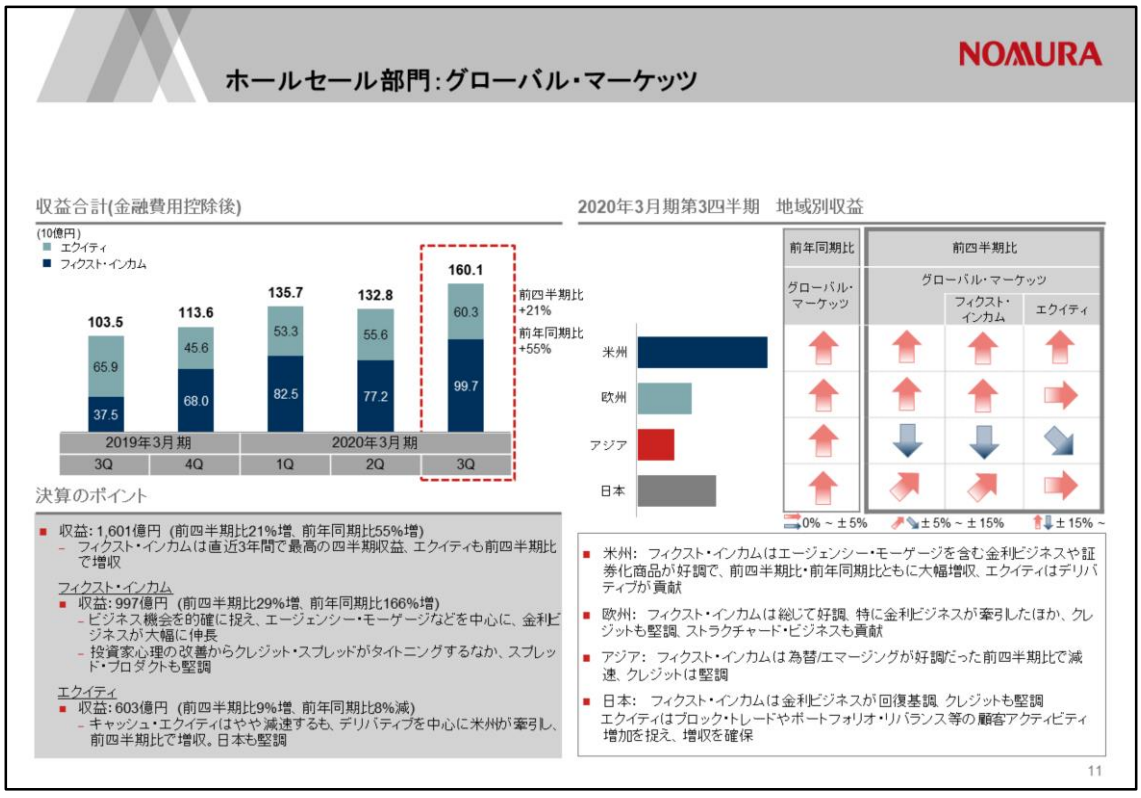
1. この表は、ホールセール部門における収益合計(金融費用控除後)に対する、管理会計ベースで作成された米国会計原則に基づかないグローバル・マーケッツおよびインベストメント・バンキングに係る指標の調整を示す

10

収益は1,865億円、前期比19%の増収、税前利益は432億円、前期比128%の増益となりました。ビジネスラインでは、好調な米州と欧州ビジネスを背景に、フィクスト・インカムは3年ぶりの高収益となりました。エクイティも米州が好調で、前期比、増収。インベストメント・バンキングも、前期、減速したレバレッジド・ファイナンスが回復したこともあり、前期比で増収となりました。

下段にありますように、地域別では、米州が736億円と、大幅な増収となりました。当社は、2000年台後半の金融危機を受けて、米国のホールセール・ビジネスを大幅に縮小し、2010年3月期以降、プラットフォームを再構築することとしました。第3四半期の736億円というのは、2010年3月期以降で最高の収益水準になります。
また、欧州や日本も、フィクスト・インカムを中心に収益を伸ばすことが出来ました。

では、ビジネスラインごとに、説明します。11ページをご覧ください。

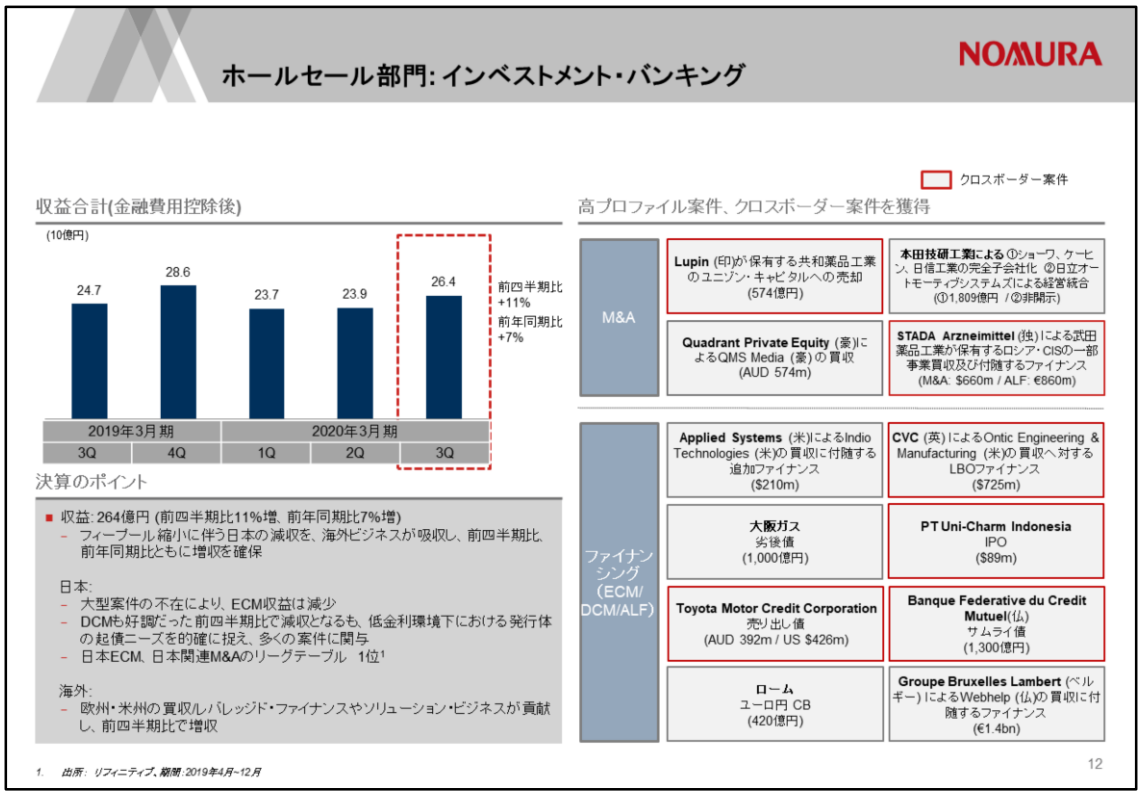


まず、グローバル・マーケッツですが、収益は1,601億円と、前期比21%の増収となりました。

フィクスト・インカムは997億円、前期比29%の増収。特に、エージェンシー・モーゲージなどの金利ビジネスが好調だったほか、クレジットや証券化商品と言ったスプレッド・プロダクトも堅調でした。
右上にありますように、米州と欧州が金利ビジネスを中心に大幅な増収、日本も金利ビジネスが貢献して上向きの矢印となりました。一方でアジアは、為替・エマージングが、好調だった前期比で減速し、下方向の矢印となりました。

エクイティは603億円、キャッシュ・エクイティがやや減速しましたが、米州のデリバティブが好調で、前期比で9%の増収となりました。
右上のヒートマップにありますように、米州はデリバティブが好調で上向きの矢印、日本も、ブロック・トレードやポートフォリオ・リバランス等の取引が貢献し、増収を確保しています。

続いてインベストメント・バンキングです。12ページをご覧ください。



収益は264億円、フィープールの縮小に伴う日本の減収を、海外ビジネスが吸収し、前期比11%の増収となりました。

日本はECMビジネスが減収となった他、DCMも好調だった前期比で減収となりましたが、発行体の起債ニーズを捉えて多くの案件に関与しました。
海外では、欧州と米州で、買収/レバレッジド・ファイナンスやソリューション・ビジネスが貢献し、前期比で増収でした。

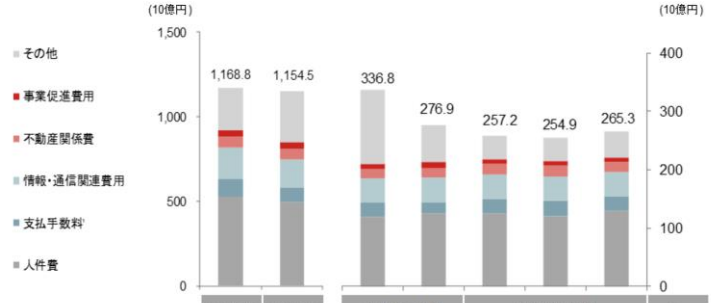
次にコストです。13ページをご覧ください。

金融費用以外の費用

NOMURA

通期

四半期



	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q	前四半期比
人件費	530.6	497.1	118.9	124.6	125.1	120.4	**129.0**	**7.1%**
支払手数料[1]	99.9	82.6	23.8	18.3	24.6	25.4	**24.6**	**-3.5%**
情報・通信関連費用	184.8	166.9	41.8	43.6	41.8	42.4	**42.8**	**1.1%**
不動産関係費	67.9	64.9	15.9	16.2	19.1	18.4	**16.3**	**-11.4%**
事業促進費用	36.8	36.9	9.1	9.6	7.8	7.9	**8.5**	**7.6%**
その他	248.9	306.0	127.3	64.5	38.8	40.4	**44.1**	**9.2%**
合計	1,168.8	1,154.5	336.8	276.9	257.2	254.9	**265.3**	**4.1%**

決算のポイント

- 金融費用以外の費用: 2,653億円
  (前四半期比4%増)

  - 人件費(前四半期比7%増)
    - ✓ 業績に応じて賞与引当金が増加
  - 不動産関係費(前四半期比11%減)
    - ✓ 国内店舗の統合に伴う一時費用が減少
      (2Q 17億円)
  - その他(前四半期比9%増)
    - ✓ 海外拠点でシステム除却損を計上

1. 2018年4月より、会計基準アップデート第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」を適用したことに伴い、一定の取引執行にかかる収益と関連費用を総額表示から純額表示に変更

13

今期の全社コストは2,653億円と、前期比で4%増加しました。

人件費は、収益の拡大に伴う賞与引当金の積み増しもあり、7%の増加、その他費用も、海外拠点のシステム除却などで9%増加しました。一方で、不動産関係費は、店舗統合費用の剥落で、11%減少しています。

続いて、財務基盤です。14ページをご覧ください。

強固な財務基盤を維持

NOMURA

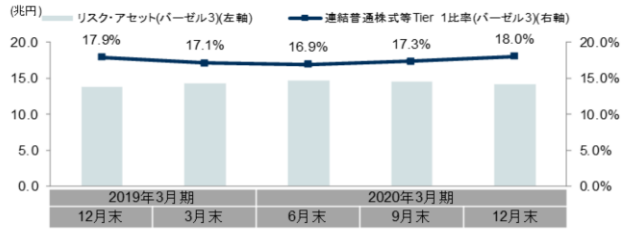
バランス・シート関連指標と連結総自己資本規制比率

	2019年 3月末	2019年 9月末	2019年 12月末
■ 資産合計	41.0兆円	45.7兆円	46.2兆円
■ 当社株主資本	2.6兆円	2.7兆円	2.7兆円
■ グロス・レバレッジ	15.6倍	16.9倍	17.1倍
調整後レバレッジ[1]	9.0倍	10.1倍	9.9倍
■ レベル3資産[2] (デリバティブ負債相殺後)	0.6兆円	0.6兆円	0.7兆円
■ 流動性ポートフォリオ	4.9兆円	4.5兆円	5.3兆円

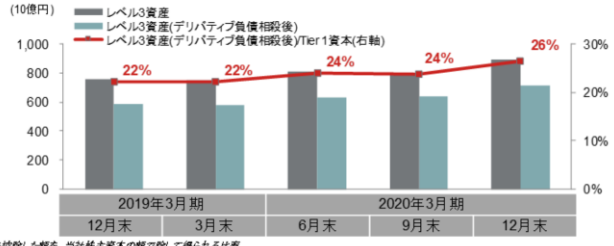
(10億円)

バーゼル3ベース	2019年 3月末	2019年 9月末	2019年 12月末[2]
Tier 1資本	2,606	2,691	2,697
Tier 2資本	46	46	46
総自己資本の額	2,652	2,737	2,743
リスク・アセット	14,252	14,577	14,040
連結Tier 1 比率	18.2%	18.4%	19.2%
連結普通株式等Tier 1比率[3]	17.1%	17.3%	18.0%
連結総自己資本規制比率	18.6%	18.7%	19.5%
連結レバレッジ比率[4]	5.03%	4.90%	4.78%
適格流動資産(HQLA)[5]	4.3兆円	4.0兆円	4.1兆円
連結流動性カバレッジ比率 (LCR)[5]	198.4%	194.4%	192.3%

リスク・アセット、連結普通株式等Tier 1比率[3]



レベル3資産[2]の推移、Tier 1資本に対する比率



1. 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率
2. 2019年12月末は暫定数値
3. 連結普通株式等Tier 1比率:Tier 1資本から、その他Tier1資本を控除し、リスク・アセットで除したもの
4. Tier 1資本を、エクスポージャー額(オンバランス項目+オフバランス項目)で除したもの
5. 四半期の日次平均の値

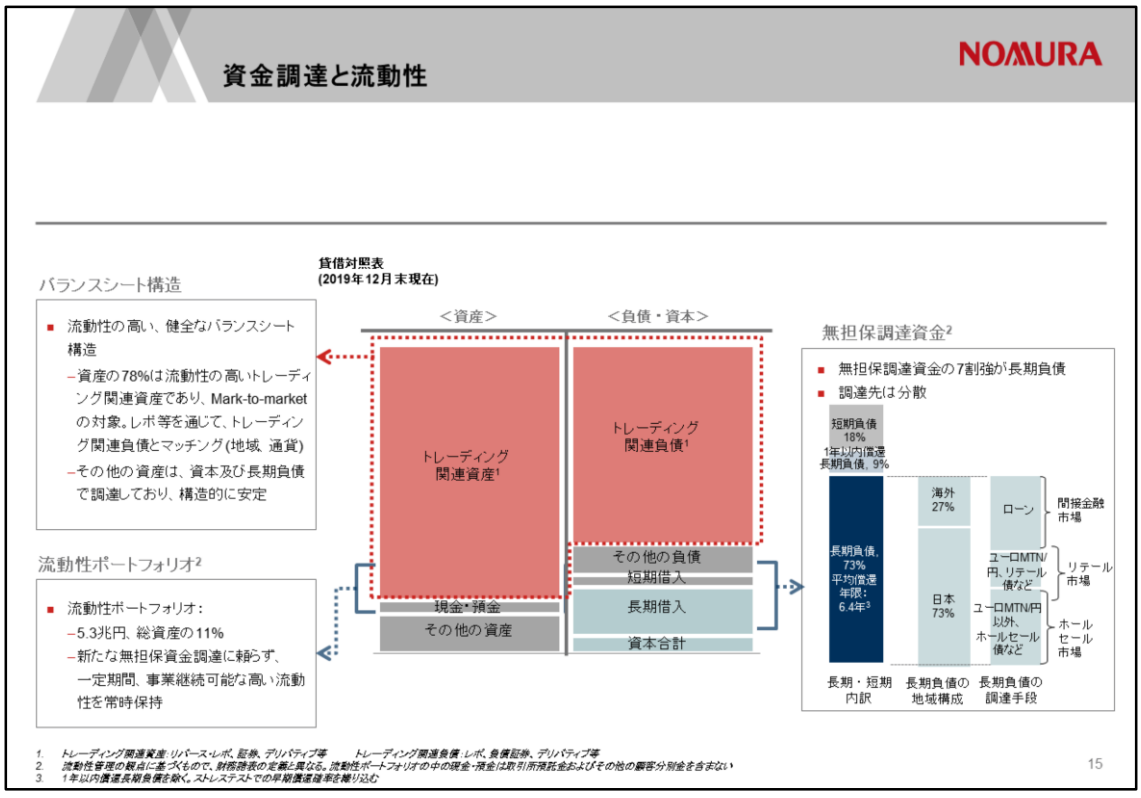
14

12月末のバランスシートは46.2兆円と、9月末から0.5兆円程度増えていますが、主な背景は、レポ取引の増加です。

また、左下にありますように、Tier 1資本は2.7兆円、リスク・アセットは14兆円と、マーケット・リスクを中心に9月末から5,400億円程度、減少しました。その結果、12月末のTier 1比率は19.2%、普通株式等Tier 1比率は18.0%となり、引き続き、十分な資本水準を維持しています。

レバレッジ比率は4.78%、流動性カバレッジ比率は、192.3%です。

以上、第3四半期決算についてご説明申し上げました。



今期は、各ビジネス部門で収益を伸ばすことができ、しっかりとした業績を残すことができました。もちろん、マーケットに支えられた部分は大きかったと思いますが、今までの取り組みも貢献しています。

ホールセール部門では、ビジネス・ポートフォリオの見直しを通じて、低収益ビジネスを縮小した結果、四半期を追うごとに日次収益のボラティリティが低下し、収益の安定性が高まりました。1月の足元は、マーケットが活況だった12月と比較するとやや減速感はありますが、好調なモメンタムは維持できており、金利プロダクトを中心にフィクスト・インカムが牽引しています。2020年も米国大統領選挙や、地政学リスクなどで、マーケットが一喜一憂する場面もあると思いますが、リスク管理を徹底しながら、収益機会を追求してまいりたいと思います。

営業部門では、昨年の夏に、チャネル・フォーメーションを見直し、お客様一人ひとりのニーズに合わせて、より適切なサービスを提供できる体制を整えました。この効果が業績面で表れるまで、しばらく時間を要すると思いますが、それぞれの領域で、パートナーの行動にポジティブな変化も出始めています。
1月に入って、マーケットが大きく下げる局面もありましたが、第3四半期の収益水準をほぼ維持できています。今後とも、それぞれの領域で今まで以上に生産性を高め、お客様に質の高いサービスをお届けできるよう、取り組んでいきます。

引き続き、どうぞ宜しくお願いいたします。

NOMURA

Financial Supplement

バランス・シート関連データ

NOMURA

連結貸借対照表

(10億円)

	2019年 3月末	2019年 12月末	前期比 増減
資産			
現金・預金	3,262	**3,736**	474
貸付金および受取債権	3,882	**3,857**	-25
担保付契約	17,307	**19,555**	2,248
トレーディング資産および プライベート・エクイティ投資[1]	14,386	**16,712**	2,326
その他の資産[1]	2,133	**2,383**	250
資産合計	40,969	**46,242**	5,273

	2019年 3月末	2019年 12月末	前期比 増減
負債			
短期借入	842	**1,068**	226
支払債務および受入預金	3,768	**3,704**	-64
担保付調達	16,684	**20,971**	4,286
トレーディング負債	8,220	**8,626**	406
その他の負債	859	**1,173**	314
長期借入	7,916	**7,911**	-5
負債合計	38,289	**43,453**	5,164
資本			
当社株主資本合計	2,631	**2,701**	70
非支配持分	50	**88**	39
負債および資本合計	40,969	**46,242**	5,273

1. 担保差入有価証券を含む

バリュー・アット・リスク

NOMURA

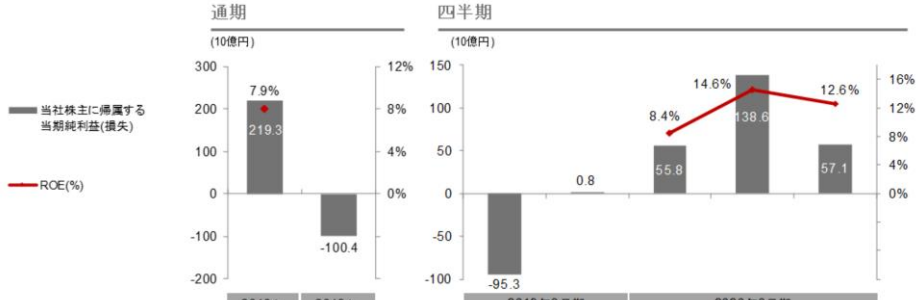
- VaRの前提
  - 信頼水準 ： 99%
  - 保有期間 ： 1日
  - 商品の価格変動等を考慮

- VaRの実績(10億円)
  - 期間 ： 2019.4.1～2019.12.31
  - 最大 ： 6.9
  - 最小 ： 3.6
  - 平均 ： 5.4

(10億円)	2018年3月期 3月末	2019年3月期 3月末	2019年3月期 12月末	2019年3月期 3月末	2020年3月期 6月末	2020年3月期 9月末	2020年3月期 12月末
株式関連	1.2	1.1	1.1	1.1	1.2	1.8	**1.4**
金利関連	3.1	2.8	3.5	2.8	3.1	4.0	**4.8**
為替関連	3.2	1.9	1.7	1.9	3.2	3.2	**2.5**
小計	7.5	5.8	6.3	5.8	7.5	8.9	**8.7**
分散効果	-1.1	-1.3	-1.4	-1.3	-1.5	-4.3	**-2.3**
連結VaR	6.4	4.5	4.9	4.5	6.0	4.6	**6.3**

連結決算概要

NOMURA



	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q
収益合計(金融費用控除後)	1,497.0	1,116.8	260.6	301.3	332.0	383.4	**335.0**
税引前当期純利益(損失)	328.2	-37.7	-76.2	24.4	74.8	128.5	**69.7**
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	219.3	-100.4	-95.3	0.8	55.8	138.6	**57.1**
当社株主資本合計	2,749.3	2,631.1	2,662.9	2,631.1	2,662.7	2,707.9	**2,701.2**
ROE(%)[1]	7.9%	-	-	-	8.4%	14.6%	**12.6%**
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(円)	63.13	-29.90	-28.52	0.25	16.83	42.11	**18.07**
希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(円)	61.88	-29.92	-28.52	0.23	16.48	41.23	**17.63**
1株当たり株主資本(円)	810.31	794.69	805.07	794.69	800.87	837.87	**873.68**

1. *四半期のROEは、各決算期末計の当期純利益を年率換算して算出*

連結損益

NOMURA

(10億円)	通期		四半期				
	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益							
委託・投信募集手数料[1]	373.3	293.1	72.7	66.1	68.2	65.3	**79.3**
投資銀行業務手数料	101.7	101.5	33.1	25.3	27.3	22.3	**26.8**
アセットマネジメント業務手数料	245.6	245.5	60.6	59.2	60.0	59.9	**61.0**
トレーディング損益	442.9	343.0	96.9	98.4	112.8	105.6	**109.3**
プライベート・エクイティ投資関連損益	-0.9	1.0	0.5	-0.3	0.8	1.0	**1.5**
金融収益	585.7	777.0	214.5	204.1	199.5	215.9	**203.1**
投資持分証券関連損益	2.7	-7.0	-9.9	1.9	-2.8	2.1	**2.2**
その他	221.2	81.1	-11.1	43.7	45.7	101.9	**14.3**
収益合計	1,972.2	1,835.1	457.4	498.4	511.4	573.9	**497.5**
金融費用	475.2	718.3	196.8	197.1	179.4	190.5	**162.5**
収益合計(金融費用控除後)	1,497.0	1,116.8	260.6	301.3	332.0	383.4	**335.0**
金融費用以外の費用[1]	1,168.8	1,154.5	336.8	276.9	257.2	254.9	**265.3**
税引前当期純利益(損失)	328.2	-37.7	-76.2	24.4	74.8	128.5	**69.7**
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	219.3	-100.4	-95.3	0.8	55.8	138.6	**57.1**

1. *2018年4月より、会計基準アップデート第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」を適用したことに伴い、一定の取引執行にかかる収益と関連費用を総額表示から純額表示に変更*

連結決算：主な収益の内訳

NOMURA

	(10億円)	通期 2018年3月期	通期 2019年3月期	四半期 2019年3月期 3Q	四半期 2019年3月期 4Q	四半期 2020年3月期 1Q	四半期 2020年3月期 2Q	四半期 2020年3月期 3Q
委託・投信募集手数料	委託手数料-株式[1]	243.8	192.0	50.5	43.9	42.6	42.5	**48.1**
	委託手数料-株式以外	17.0	14.4	4.3	2.5	2.7	2.8	**3.0**
	投信募集手数料	85.7	56.6	11.5	11.7	16.4	12.6	**19.0**
	その他手数料	26.9	30.0	6.4	8.0	6.4	7.4	**9.2**
	合計	373.3	293.1	72.7	66.1	68.2	65.3	**79.3**
投資銀行業務手数料	株式	23.2	30.0	14.7	3.6	3.1	4.9	**4.1**
	債券	16.3	22.7	6.6	5.3	6.8	6.6	**6.1**
	M&A・財務コンサルティングフィー	39.3	33.2	7.3	13.0	10.6	7.1	**11.9**
	その他	22.9	15.5	4.5	3.4	6.9	3.8	**4.8**
	合計	101.7	101.5	33.1	25.3	27.3	22.3	**26.8**
アセットマネジメント業務手数料	アセットマネジメントフィー	170.4	168.7	41.5	40.2	40.3	40.0	**40.7**
	アセット残高報酬	57.9	61.0	15.2	15.2	15.7	16.0	**16.3**
	カストディアルフィー	17.3	15.8	3.9	3.9	4.0	4.0	**4.1**
	合計	245.6	245.5	60.6	59.2	60.0	59.9	**61.0**

1. 2018年4月より、会計基準アップデート第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」を適用したことに伴い、一定の取引執行にかかる収益と関連費用を総額表示から純額表示に変更

連結決算：セグメント情報と地域別情報　税前利益(損失)

NOMURA

連結決算数値とセグメント数値間の調整：税前利益(損失)

(10億円)	通期		四半期				
	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業部門	103.1	49.5	14.0	3.3	8.1	5.3	**17.6**
アセット・マネジメント部門[1]	66.2	34.2	0.6	14.4	18.1	10.0	**9.3**
ホールセール部門	100.6	-111.4	-95.9	-13.0	20.0	18.9	**43.2**
3セグメント合計税前利益	269.9	-27.7	-81.3	4.7	46.3	34.2	**70.2**
その他[1]	56.4	-2.8	15.1	17.8	31.5	93.4	**2.2**
セグメント合計税前利益	326.3	-30.5	-66.2	22.5	77.7	127.7	**72.4**
営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	1.9	-7.2	-10.0	1.8	-2.9	0.8	**-2.7**
税前利益(損失)	328.2	-37.7	-76.2	24.4	74.8	128.5	**69.7**

地域別情報：税前利益(損失)[2]

(10億円)	通期		四半期				
	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
米　州	-8.8	-114.1	-87.1	-3.7	14.3	1.1	**16.4**
欧　州	-14.7	-56.9	-14.5	-25.5	4.5	-1.5	**2.3**
アジア・オセアニア	22.8	5.0	-3.9	8.7	11.6	10.5	**1.0**
海外合計	-0.7	-165.9	-105.5	-20.5	30.4	10.2	**19.7**
日本	328.8	128.2	29.4	44.9	44.4	118.3	**50.0**
税前利益(損失)	328.2	-37.7	-76.2	24.4	74.8	128.5	**69.7**

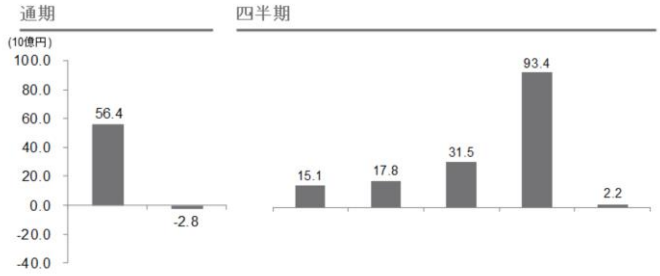
1. 2019年3月期1Qより、従来アセット・マネジメント部門に含めていた野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーをセグメント「その他」に移行　2.　米国会計原則に基づく「地域別情報」を記載(但し当第3四半期の数値は速報値)。米国会計原則に基づく「地域別情報」は、その収益および費用の各地域への配分が原則として役務の提供される法的主体の所在国に基づき行われており、当社において経営管理目的で用いられているものではありません

22

セグメント「その他」

NOMURA

税前利益(損失)



	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q
経済的ヘッジ取引に関連する損益	-6.5	1.8	25.1	6.6	12.8	7.0	**2.3**
営業目的で保有する投資持分証券の実現損益	0.8	0.2	0.1	0.1	0.1	1.3	**4.9**
関連会社損益の持分額	34.2	32.5	1.4	15.9	8.3	8.0	**4.8**
本社勘定	-41.9	-36.0	0.6	-10.4	1.4	-4.6	**-9.1**
その他	69.7	-1.3	-12.2	5.7	8.9	81.8	**-0.8**
税前利益(損失)	56.4	-2.8	15.1	17.8	31.5	93.4	**2.2**

営業部門関連データ(1)

NOMURA

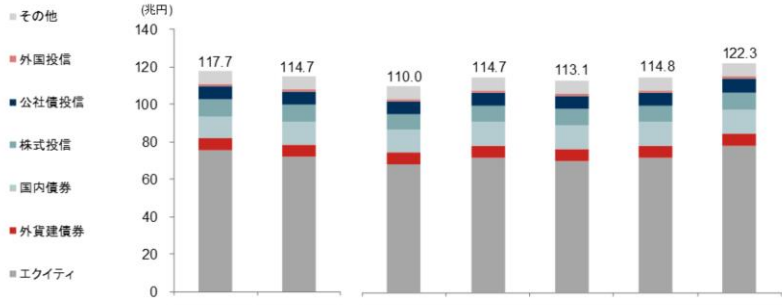
(10億円)	通期		四半期						
	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期			前四半期比	前年同期比
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
委託・投信募集手数料	192.7	142.8	34.1	31.0	34.5	31.2	**42.2**	**35.5%**	**23.7%**
うち株式委託手数料	82.2	60.2	15.8	12.2	12.5	12.6	**17.0**	**35.1%**	**7.7%**
うち投資信託募集手数料	87.1	57.9	11.7	12.1	16.5	12.6	**19.2**	**51.7%**	**64.3%**
販売報酬	91.5	55.8	10.9	10.5	14.9	12.7	**16.7**	**31.7%**	**52.3%**
投資銀行業務手数料等	26.0	34.0	14.3	6.7	5.6	6.0	**5.5**	**-9.1%**	**-61.8%**
投資信託残高報酬等	93.6	95.4	23.6	23.4	23.4	23.4	**23.2**	**-0.9%**	**-2.0%**
純金融収益等	9.2	11.5	3.8	2.6	2.3	3.7	**2.6**	**-31.2%**	**-32.5%**
収益合計(金融費用控除後)	412.9	339.5	86.8	74.2	80.6	76.9	**90.0**	**17.1%**	**3.8%**
金融費用以外の費用	309.8	290.0	72.7	70.9	72.5	71.6	**72.4**	**1.1%**	**-0.5%**
税前利益	103.1	49.5	14.0	3.3	8.1	5.3	**17.6**	**3.4x**	**25.6%**
国内投信販売金額[1]	3,610.5	2,423.7	527.5	499.8	741.5	566.7	**790.9**	**39.6%**	**49.9%**
株式投信	3,198.6	2,130.8	451.7	426.4	618.8	493.5	**694.8**	**40.8%**	**53.8%**
外国投信	411.9	292.9	75.8	73.4	122.7	73.2	**96.1**	**31.3%**	**26.8%**
その他									
年金保険契約累計額(期末)	3,094.5	3,260.7	3,225.1	3,260.7	3,308.7	3,356.7	**3,415.4**	**1.7%**	**5.9%**
個人向け国債販売額(約定ベース)	628.1	1,022.8	237.6	266.6	296.7	236.4	**315.9**	**33.6%**	**33.0%**
リテール外債販売額	1,249.9	848.9	193.1	210.1	222.0	195.4	**266.5**	**36.3%**	**38.0%**

1. *旧ネット&コールを除く。尚、2018年3月期4Q以降は、旧ネット&コールを含む*

営業部門関連データ(2)

NOMURA

営業部門顧客資産残高



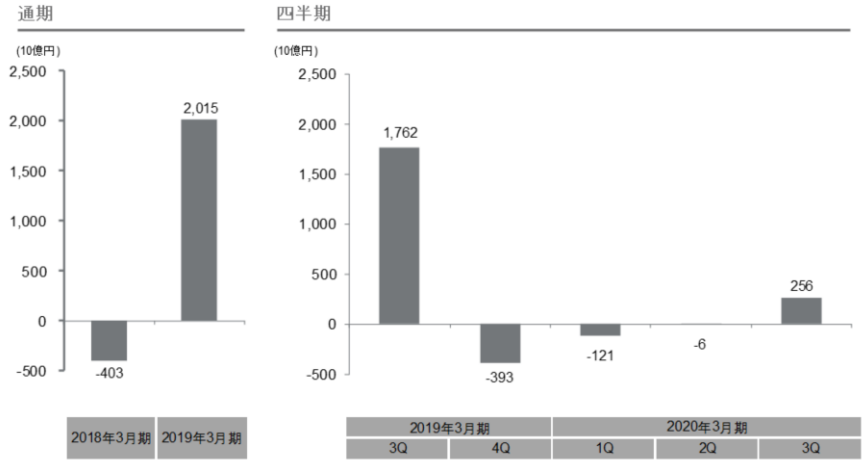
	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
エクイティ	75.7	71.9	68.4	71.9	70.3	71.9	**78.3**
外貨建債券	6.1	6.3	6.2	6.3	6.4	6.3	**6.3**
国内債券[1]	11.9	12.5	12.3	12.5	12.4	12.5	**12.6**
株式投信	9.1	9.0	8.3	9.0	9.0	8.9	**9.2**
公社債投信	7.1	6.8	6.8	6.8	6.9	7.1	**7.5**
外国投信	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	**1.1**
その他[2]	6.7	7.1	6.9	7.1	7.0	7.1	**7.2**
合計	117.7	114.7	110.0	114.7	113.1	114.8	**122.3**

1. CB・クラントを含む 2. 年金保険契約資産残高を含む

営業部門関連データ(3)

NOMURA

現金本券差引[1]



1. 地域金融機関を除く、現金および本券の流入から流出を差引

営業部門関連データ(4)

NOMURA

口座数

(千口座)	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
残あり顧客口座数	5,318	5,338	5,354	5,338	5,335	5,326	**5,328**
株式保有口座数	2,822	2,908	2,905	2,908	2,914	2,913	**2,897**
オンラインサービス口座数[1]	4,387	4,569	4,526	4,569	4,601	4,632	**4,662**

個人新規開設口座数・IT比率[2]

(千口座)	通期		四半期				
	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
個人新規開設口座数	231	257	73	60	49	48	**47**
IT比率[2]							
売買件数ベース	67%	78%	77%	80%	79%	79%	**78%**
売買金額ベース	43%	53%	53%	53%	53%	53%	**52%**

1. 2018年1月にネット&コール及びホームトレードを統合し、「オンラインサービス」として新たにサービス提供を開始
2. 現物株のうち、旧ホームトレードを通じて売買された割合。尚、2018月期4Q以降は、現物株のうち、オンラインサービスを通じて売買された割合

アセット・マネジメント部門関連データ(1)

NOMURA

(10億円)	通期[1] 2018年3月期	通期[1] 2019年3月期	四半期[1] 2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
収益(除: ACI関連損益)	105.3	102.9	24.5	26.0	25.8	25.0	**26.0**	**4.0%**	**6.3%**
ACI関連損益	22.1	-5.0	-8.3	4.9	8.7	0.7	**-0.6**	**-**	**-**
収益合計(金融費用控除後)	127.3	97.8	16.2	30.9	34.5	25.7	**25.4**	**-1.1%**	**57.0%**
金融費用以外の費用	61.2	63.7	15.6	16.5	16.4	15.6	**16.1**	**2.9%**	**3.0%**
税前利益	66.2	34.2	0.6	14.4	18.1	10.0	**9.3**	**-7.2%**	**16.6x**

運用資産残高 – 会社別

(兆円)	2018年3月期 3月末	2019年3月期 3月末	2019年3月期 12月末	2019年3月期 3月末	2020年3月期 6月末	2020年3月期 9月末	2020年3月期 12月末
野村アセットマネジメント	52.4	53.4	50.2	53.4	53.4	54.1	**57.3**
野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー	2.8	-	-	-	-	-	-
ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント	2.7	3.0	2.6	3.0	3.0	3.0	**3.1**
運用資産残高(グロス)[2]	57.8	56.4	52.9	56.4	56.4	57.2	**60.4**
グループ会社間の重複資産	7.8	5.0	4.5	5.0	4.8	4.7	**4.8**
運用資産残高(ネット)[3]	50.0	51.4	48.3	51.4	51.6	52.4	**55.6**

1. この表は、アセット・マネジメント部門における収益合計(金融費用控除後)に対する、管理会計ベースで作成された米国会計原則に基づかない指標である収益(ACI関連損益を除く)およびACI関連損益の構成を示す。「ACI関連損益」には、当社が保有するACI株式の時価評価損益、ACI株式取得資金に係る利息相当額、および当社がACIから受領した配当金等が含まれる。2019年3月期1Q以降は、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーを含まない
2. 野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、ウエルス・スクエアの運用資産の単純合計。2018年6月末以降は、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーを含まない
3. 運用資産残高(グロス)から重複資産控除後

アセット・マネジメント部門関連データ(2)

NOMURA

アセット・マネジメント部門 資金流出入－ビジネス別[1]

(10億円)	通期 2018年3月期	通期 2019年3月期	四半期 2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q
投資信託ビジネス	3,131	2,187	1,141	503	672	259	**296**
うちETF	3,022	2,531	1,391	483	642	246	**115**
投資顧問ビジネス	203	20	-354	109	-164	121	**198**
資金流出入 合計	3,334	2,207	787	612	508	381	**494**

国内公募投信残高推移と野村アセットマネジメントのシェア[2]

(兆円)	2018年3月期 3月末	2019年3月期 3月末	2019年3月期 12月末	2019年3月期 3月末	2020年3月期 6月末	2020年3月期 9月末	2020年3月期 12月末
国内公募株式投信残高							
マーケット	96.9	101.5	93.6	101.5	101.9	104.3	**109.9**
野村アセットマネジメントシェア	25%	26%	26%	26%	26%	26%	**26%**
国内公募公社債投信残高							
マーケット	12.3	11.6	11.6	11.6	11.7	11.9	**13.3**
野村アセットマネジメントシェア	44%	45%	45%	45%	44%	44%	**44%**
ETF残高							
マーケット	32.5	37.4	33.6	37.4	38.2	39.9	**43.3**
野村アセットマネジメントシェア	46%	45%	45%	45%	45%	45%	**45%**

1. 運用資産残高(ネット)に基づく資金流出入　2. 出所:投資信託協会

ホールセール部門関連データ

NOMURA

(10億円)	通期 2018年3月期	通期 2019年3月期	四半期 2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
収益合計(金融費用控除後)	715.3	555.4	128.2	142.2	159.5	156.7	**186.5**	**19.0%**	**45.5%**
金融費用以外の費用	614.7	666.8	224.1	155.3	139.5	137.8	**143.3**	**4.0%**	**-36.0%**
税前利益(損失)	100.6	-111.4	-95.9	-13.0	20.0	18.9	**43.2**	**128.3%**	**-**

ホールセール部門 収益の内訳[1,2]

(10億円)	通期 2018年3月期	通期 2019年3月期	四半期 2019年3月期 3Q	2019年3月期 4Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
フィクスト・インカム	341.6	232.8	37.5	68.0	82.5	77.2	**99.7**	**29.2%**	**165.6%**
エクイティ	261.6	220.2	65.9	45.6	53.3	55.6	**60.3**	**8.5%**	**-8.5%**
グローバル・マーケッツ	603.2	453.0	103.5	113.6	135.7	132.8	**160.1**	**20.5%**	**54.7%**
インベストメント・バンキング	112.1	102.3	24.7	28.6	23.7	23.9	**26.4**	**10.7%**	**6.9%**
収益合計(金融費用控除後)	715.3	555.4	128.2	142.2	159.5	156.7	**186.5**	**19.0%**	**45.5%**

1. 2018年4月の組織再編に伴い、2018年3月期のフィクスト・インカム、エクイティおよびインベストメント・バンキング収益を組み替えて表示
2. この表は、ホールセール部門における収益合計(金融費用控除後)に対する、管理会計ベースで作成され、米国会計原則に基づかないグローバル・マーケッツおよびインベストメント・バンキングに係る指標の調整を示す

人員数

NOMURA

	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期		2020年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
日本	15,819	15,852	16,138	15,852	16,423	16,119	**15,971**
欧州	3,057	2,909	2,963	2,909	2,775	2,734	**2,658**
米州	2,362	2,357	2,384	2,357	2,230	2,167	**2,116**
アジア・オセアニア[1]	6,810	6,746	6,796	6,746	6,684	6,692	**6,554**
合計	28,048	27,864	28,281	27,864	28,112	27,712	**27,299**

1. *インド(ボワイ・オフィス)を含む*

Disclaimer

NOMURA

本資料は、野村ホールディングス株式会社が、米国会計基準による2020年3月期第3四半期に関する情報の提供を目的として作成したものです。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。売付または買付の勧誘は、それぞれの国・地域の法令諸規則等に則って作成・配布される募集関連書類または目論見書に基づいて行われます。

本資料に掲載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源より取得したものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本資料の一切の権利は別段の記載がない限り野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

本資料は、将来の予測等に関する情報（「将来予測」）を含む場合があり、また当社の経営陣は将来予測に関する発言を行うことがあります。これらの情報は、過去の事実ではなく、あくまで将来の事象に対する当社の予測にすぎず、その多くは本質的に不確実であり、当社が管理できないものであります。 実際の結果や財務状態は、これらの将来予測に示されたものとは、場合によっては著しく異なる可能性があります。したがって、将来予測は、過度に信頼すべきではなく、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。実際の結果に影響を与える可能性がある重要なリスク要因としては、経済情勢、市場環境、政治的イベント、投資家のセンチメント、セカンダリー市場の流動性、金利の水準とボラティリティ、為替レート、有価証券の評価、競争の条件と質、取引の回数とタイミング等が含まれるほか、当社ウェブサイト（https://www.nomura.com）、EDINET（http://info.edinet-fsa.go.jp/）または米国証券取引委員会（SEC）ウェブサイト（http://www.sec.gov）に掲載されている有価証券報告書等、SECに提出した様式20-F年次報告書等の当社の各種開示書類にもより詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来予測に変更があった場合でも、当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

NOMURA

Nomura Holdings, Inc.
www.nomura.com/jp/